

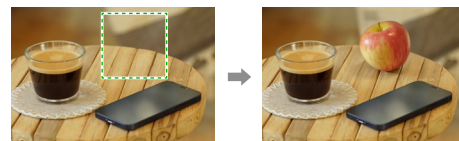
撮影した商品の背景を Adobe Photoshop を使って生成する

※画像使用についての注意事項 課題用に提供されているストック画像をワークショップ以外の用途に利用することを禁じます。

目次

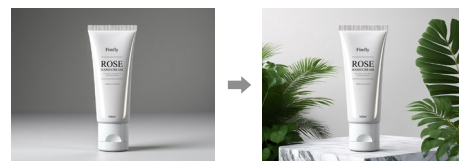
STEP_1 6~7分

Adobe Photoshopの「生成塗りつぶし」



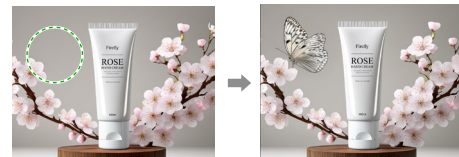
STEP_2 6~7分

商品画像の背景を生成する



STEP_3 3~4分

背景に要素を追加する / 削除する



STEP_4 4~5分

デザインに活用する




STEP_5 8~9分

構図を指定して背景を生成する



Adobe Photoshopの「生成塗りつぶし」

 このステップで学べること：生成塗りつぶしでできること／背景生成とは

1-1 「生成塗りつぶし」とは

作成した選択範囲に対してテキストによる指示（プロンプト）を入力し、画像に新たな要素を追加したり、不要な要素を自然に削除・別の要素に置き換えたりできる機能です。

1-2 「生成塗りつぶし」でできること

・要素を追加する

プロンプト：りんご



・不要なものを削除する

プロンプト：なし



・ものを置き換える

プロンプト：オレンジジュース



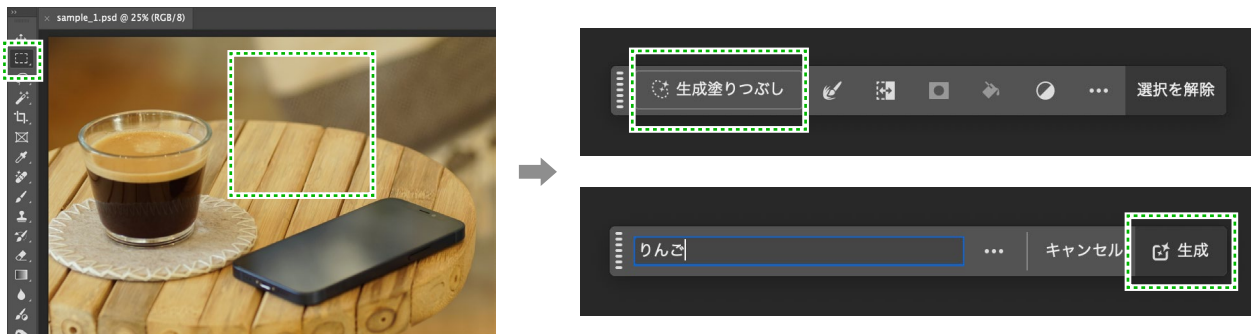
1-3 「生成塗りつぶし」の使い方

- ①任意の選択ツールを使用して、選択範囲を作成
- ②コンテキストタスクバーから「生成塗りつぶし」をクリック
- ③テキスト入力ボックスが表示されたら、必要に応じてテキストを入力して「生成」のボタンをクリック

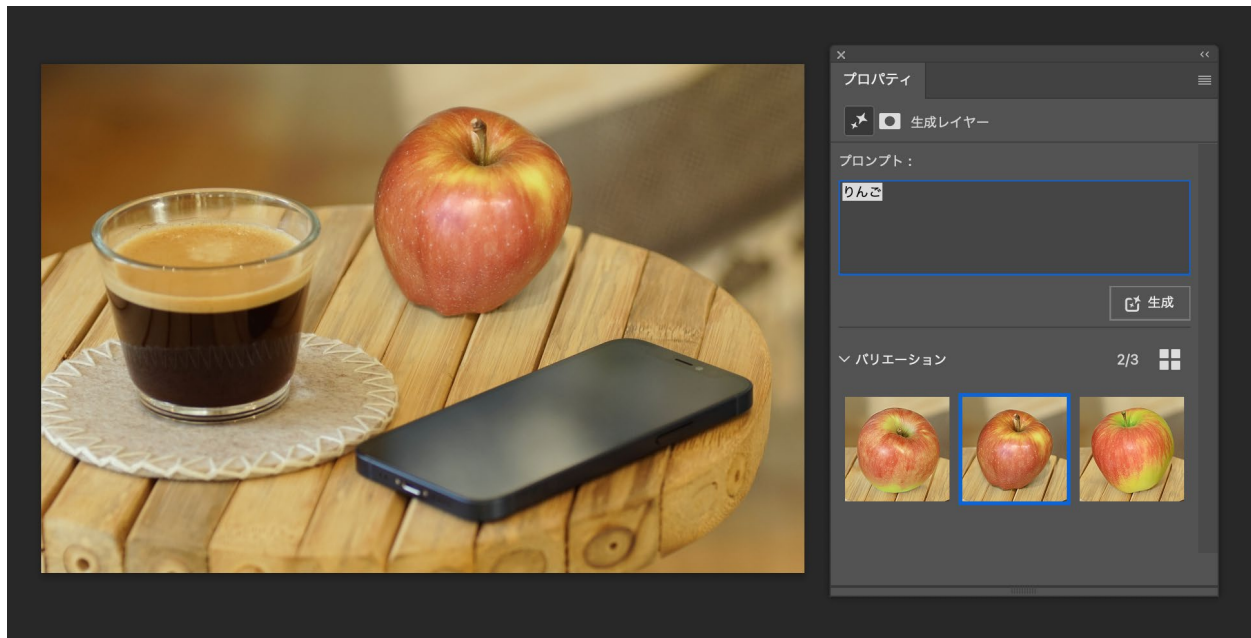
1-4 「生成塗りつぶし」を実際に使ってみよう

・生成塗りつぶしを使って、画像内のテーブルの上にりんごを生成してみましょう。

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_1.psd を開く
- ②長方形選択ツールを使用して、選択範囲を作成
- ③コンテキストタスクバーから「生成塗りつぶし」をクリック
- ④テキスト入力ボックスに「りんご」と入力して「生成」のボタンをクリック

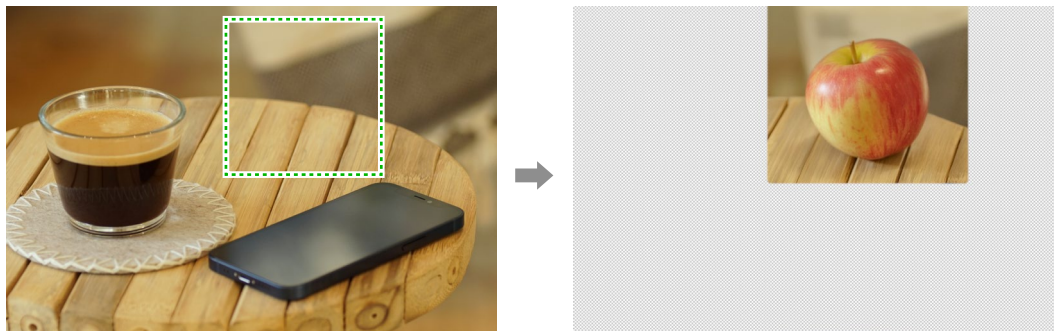


- ⑤プロパティーパネルから、生成結果のバリエーションを確認



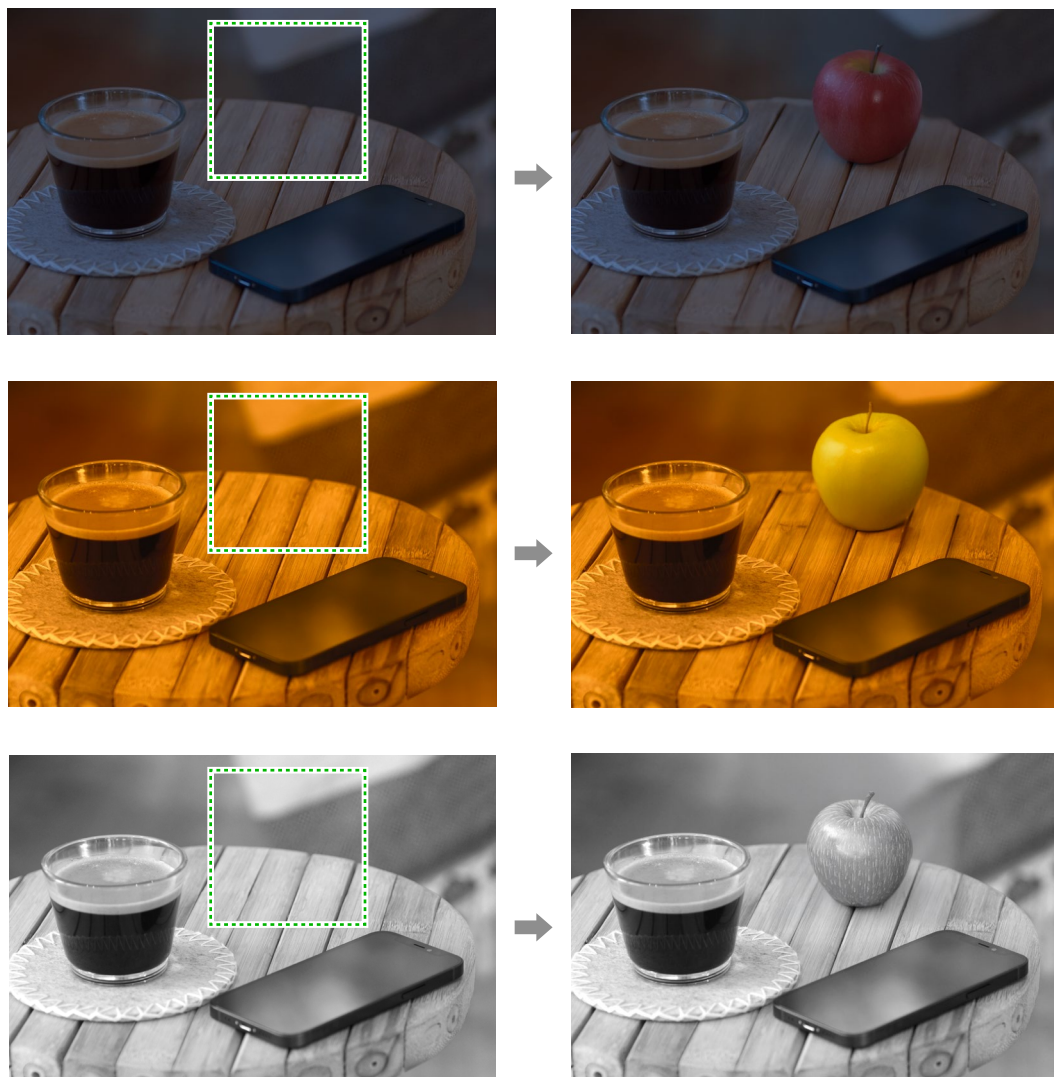
1-5 選択範囲を作る時の注意点

生成される内容は、選択範囲ぴったりにはならず、周囲の背景も含めて選択範囲内に描画される仕様になっています。そのため、目的の要素をきれいに生成したい場合は、少し大きめに選択範囲をとるのがポイントです。




1-6 要素を追加 / 置き換えする時の特徴

生成される要素は、元の画像全体の色味や明るさに自動でなじむように作られます。そのため、追加したオブジェクトが違和感なく合成され、自然な仕上がりになります。



商品画像の背景を生成する

 このステップで学べること：背景生成の作業工程／プロンプトのコツ

2-1 「背景を削除」と「背景を生成」とは

「背景を削除」は、画像から背景を自動的に選択して削除できる機能です。「背景を生成」はプロンプトに応じて新しい背景を生成してくれる機能です。

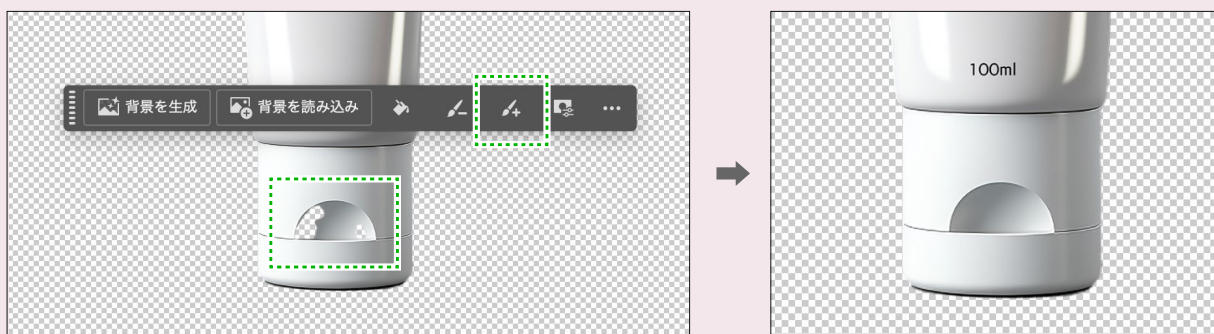
操作はとてもシンプルで、画像を選択した状態で、コンテキストタスクバーから「背景を削除」→「背景を生成」と進むだけで完了します。

2-2 「背景を生成」の操作手順

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_2.psd を開く
- ②コンテキストタスクバーから「背景を削除」をクリックして、被写体の背景を削除



背景を削除した際に、被写体の一部まで誤って消えてしまうことがあります。その場合はコンテキストタスクバーの「+ブラシ」をクリックし、ドラッグでなぞることで被写体を復元できます。逆に、消したい背景が一部残っている場合は、「-ブラシ」でなぞると削除できます。



- ③コンテキストタスクバーから「背景を生成」をクリックして、テキスト入力ボックスを表示。
プロンプト入力欄に「大理石の台座と植物」と入力して「生成」をクリック



④プロパティパネルに3つのバリエーションが表示されるので、好きなバリエーションを選択しましょう。



2-3 プロンプトのコツ

商品画像に背景を生成する際のプロンプトには、「〇〇の台座と〇〇」あるいは「〇〇の台座と〇〇の背景」が効果的です。シーンの想定や演出したい雰囲気に応じて使い分けましょう。

「〇〇の台座と〇〇」と「〇〇の台座と〇〇の背景」の違い

■〇〇の台座と〇〇

シンプルな背景をベースに、指定した要素（小物や演出）が追加されます。商品の印象を保ちつつ、少しだけ雰囲気を加えたいときに最適です。



プロンプト：木の台座と桜



プロンプト：岩の台座と雪

■〇〇の台座と〇〇の背景

背景全体のロケーションや空間の雰囲気が大きく変わります。屋外・カフェ・バスルームなど、シーンそのものを変更したいときに有効です。



プロンプト：木の台座と桜の背景



プロンプト：岩の台座と雪の背景

2-4 別のプロンプト例

「〇〇の台座と〇〇」以外にも、構図を指定する演出も効果的です。

構図や質感にこだわることで、印象的でリアルなビジュアルを生成することができます。



真上から見た構図 大理石の床

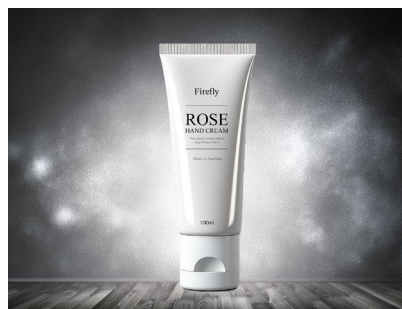
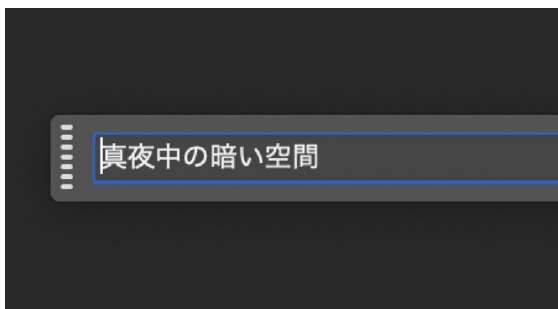


氷の背景 反射

2-5 背景を生成する時の注意点

生成される背景は、切り抜いた被写体の「色味」や「ライティング（光の方向や明るさ）」に合うように、自動的に調整されます。そのため、明るいライティングの商品の写真に対して、暗い背景を自然に生成するのは困難です。このような場合は、背景だけ別に生成して被写体と合成するのがおすすめです。（ステップ5で詳しく解説）

下の画像は暗い空間にしたかったが、被写体の周りが明るくなってしまった失敗例です。



背景に要素を追加する / 削除する



このステップで学べること：生成した背景に要素を追加生成する方法／要素を削除する方法

3-1 要素を追加する

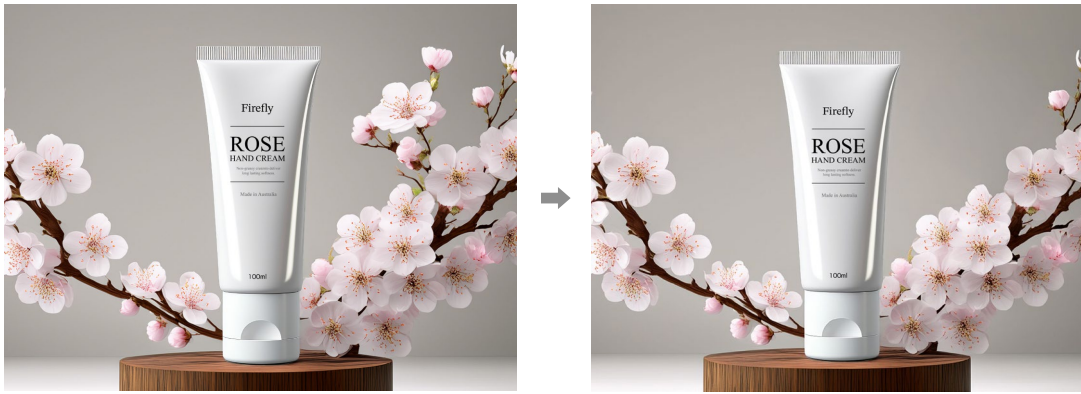
- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_3.psd を開く
- ②楕円形選択ツールで選択範囲を作成
- ③コンテキストタスクバーから「生成塗りつぶし」をクリックして、テキスト入力ボックスを表示
- ④プロンプトに「蝶」を入力して「生成」をクリック



3-2 要素を削除する（キャッチコピーを入れるスペースを確保したいケースなど）

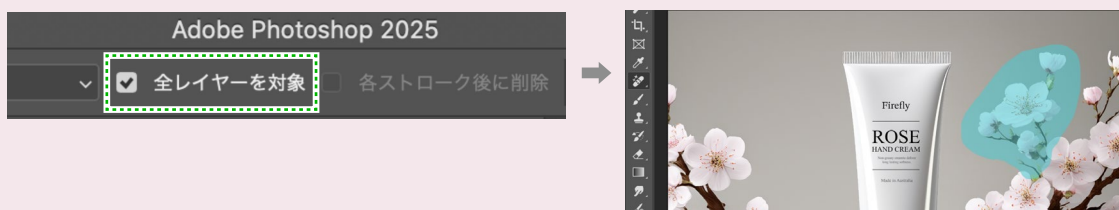
- ①楕円形選択ツールで選択範囲を作成
- ②コンテキストタスクバーから「生成塗りつぶし」をクリックして、テキスト入力ボックスを表示
- ③プロンプトは何も書かずに「生成」をクリック






削除ツールでも可能

不要な要素の削除は削除ツールでも行えます。削除ツールを使う場合は、元画像を破壊しないように、新規レイヤーを作成後、「全レイヤーを対象」にチェックを入れて作業しましょう。



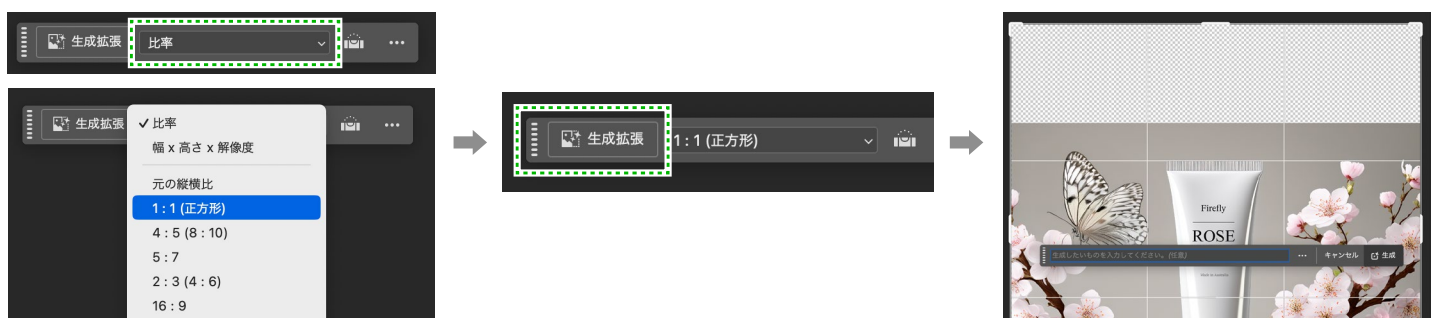
STEP_4 4~5分

デザインに活用する

 このステップで学べること：生成した背景をデザインに活用する方法／デザインのリサイズ方法

4-1 正方形のデザイン（広告 Web バナーに活用）

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_4.psd を開く
- ②切り抜きツールに切り替えて、コンテキストタスクバーから、比率を「1:1（正方形）」にする
- ③上にキャッチコピーを入れるスペースができるように画像の位置を調整して、プロンプトは書かずに「生成拡張」をクリック



④文字のレイヤーを表示してデザインを確認する



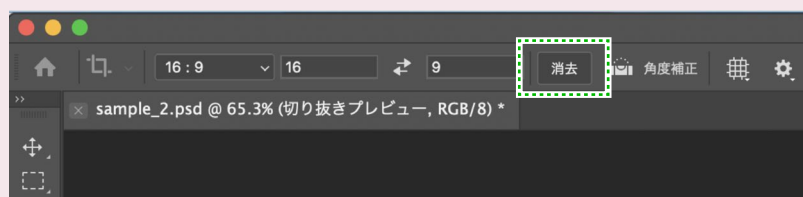
4-2 16:9 にリサイズ

①コンテキストタスクバーから、比率を「16:9」に変更する


②左右にスペースができるように画像の位置を調整して、プロンプトは書かずに「生成拡張」をクリック



(補足) 切り抜きツールで比率を指定したあと、自由にサイズや比率を変更できる状態に戻したい場合は、画面上のオプションバーに表示される「削除」ボタンをクリックして、指定した比率をリセットしましょう。



構図を指定して背景を生成する

 このステップで学べること：ラフ画像を作成して、その構図の通りに背景を生成する方法
その背景と被写体を合成する方法

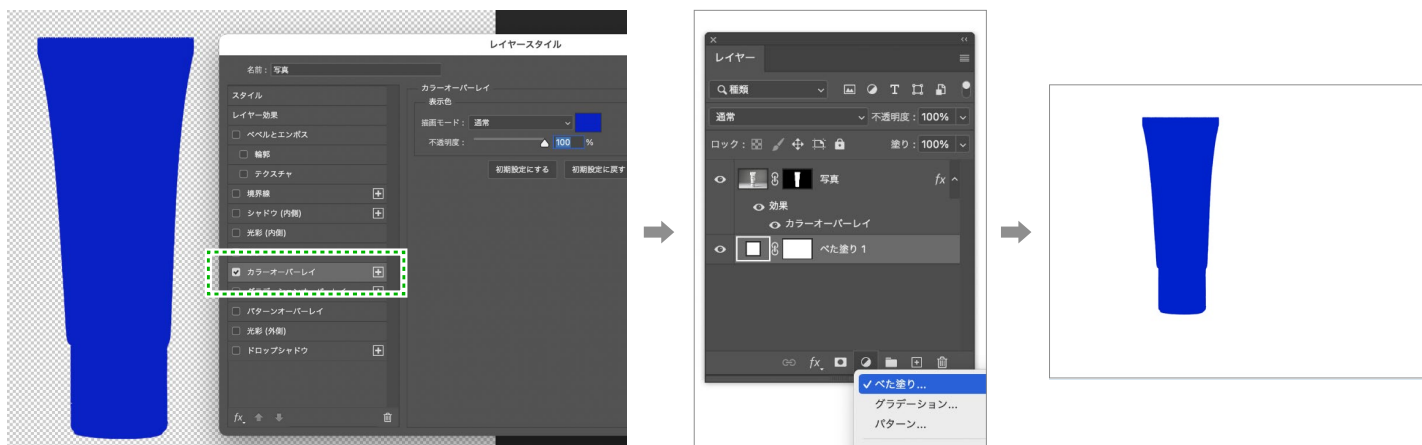
あらかじめ下書きとなるラフ画像を作成しておくことで、画像を生成の新機能「コンポジション」を使って、その構図通りの背景を生成することができます。ハンドクリームを左に寄せてキャッチコピーを右に入れたいケースなど、理想の構図が頭の中にあるときに便利な方法です。

5-1 構図のラフ画像を作成

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample_5.psd を開く
- ②コンテキストタスクバーから「被写体を選択」をクリック
- ③コンテキストタスクバーから「マスク」で切り抜く



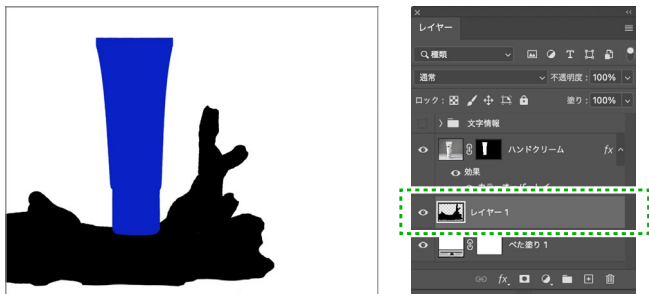
- ④レイヤーパネルから、レイヤースタイルを開き、カラーオーバーレイを使ってわかりやすい色で塗りつぶす
- ⑤一番下のレイヤーにベタ塗りレイヤーを作成し、白背景を作成
- ⑥ハンドクリームのサイズを小さくして、位置を左に調整



⑦ハンドクリームの下に新規レイヤーを作成し、黒のブラシで生成したい枝の形を描画する

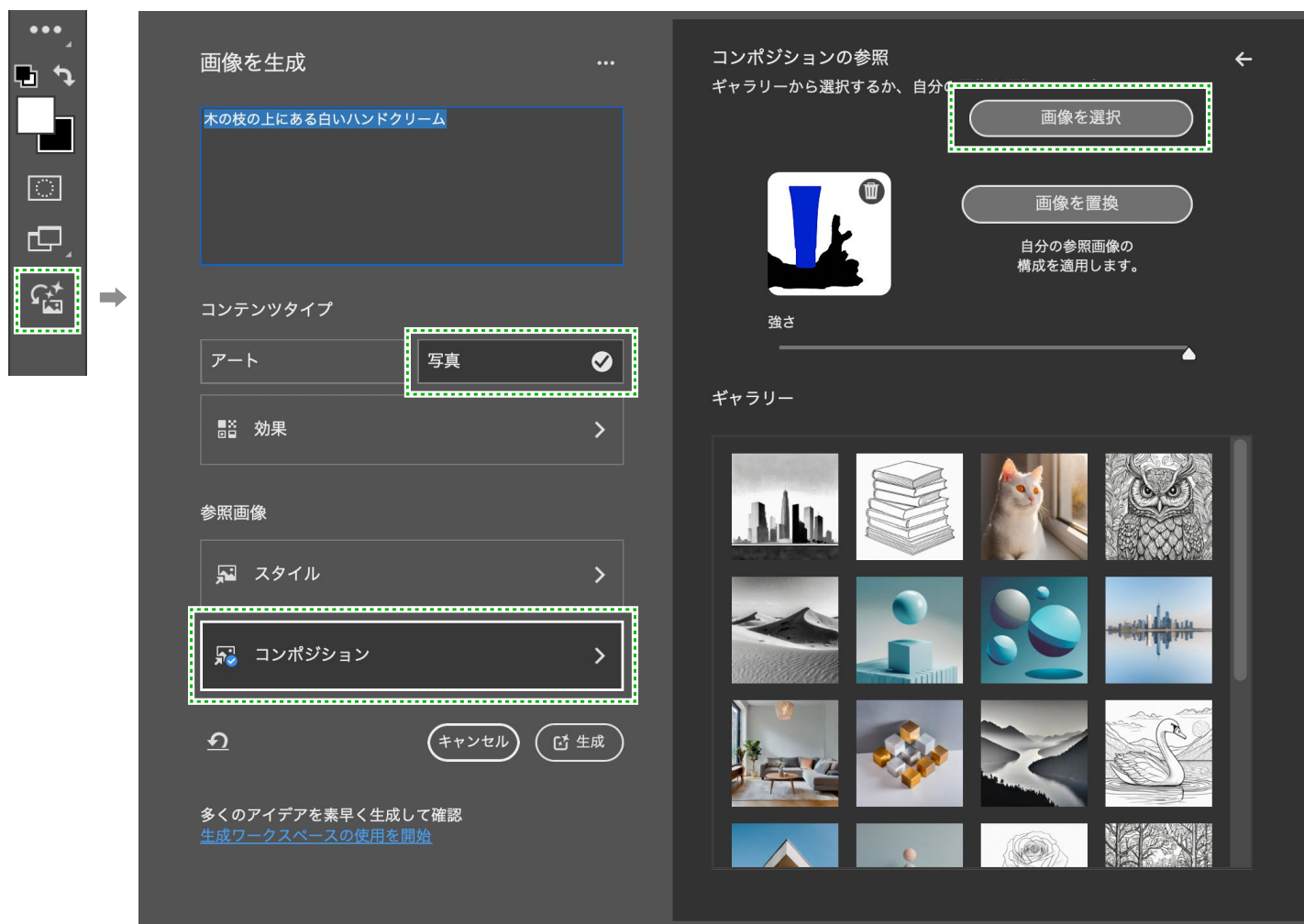
今回は、右側に文字を配置するため、右のスペースをあらかじめ空けた構図にしています。

⑧制作したラフ画像を JPEG 画像に書き出す



5-2 背景の画像を生成

- ①一時的に全てのレイヤーを非表示
- ②ツールバーの一番下にある「画像を生成」のアイコンをクリック
- ③プロンプト入力欄に「木の枝の上にある白いハンドクリーム」と入力
- ④コンテンツタイプ「写真」を選択
- ⑤コンポジションから「画像を選択」のボタンをクリックし、先ほど保存したラフ画像をアップロード
- ⑥強さのスライダーを MAX にし、「生成」のボタンをクリック



⑥生成された画像から最適なバリエーションを選ぶ



5-3 切り抜き画像と合成する

- ①生成した画像レイヤーを、ハンドクリームのレイヤーの下に移動する
- ②レイヤースタイルを非表示にする



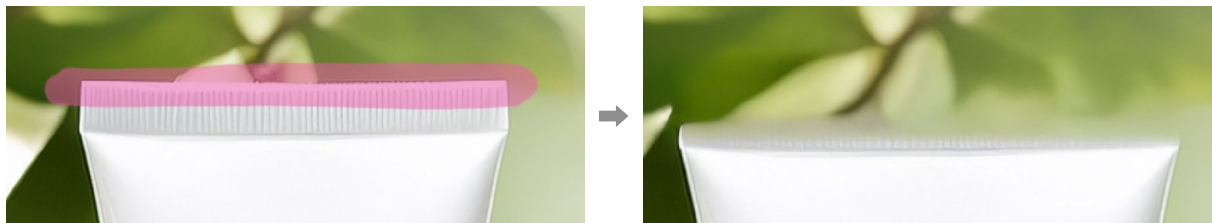
③文字情報のレイヤーを表示する



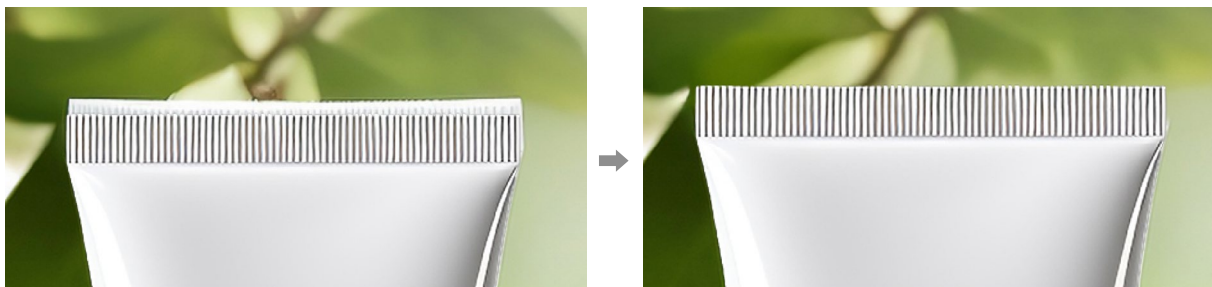
5-4 補足

切り抜いたハンドクリームの背後に、生成した画像のハンドクリームがはみ出して見えてしまう場合は、以下の手順で対処しましょう。

- ①切り抜きレイヤーを一時的に非表示にする
- ②次に、背景レイヤーに残っているはみ出し部分を削除ツールで消去



- ③削除が完了したら、切り抜きレイヤーを再表示して確認



削除ツールを使う際の注意点【ステップ3のおさらい】

削除ツールを使う際は、元画像を壊さないように注意しましょう。

新規レイヤーを作成し、「全レイヤーを対象」にチェックを入れて作業することで、非破壊で編集できます。

5-5 完成



5-6 別のラフ画像を使った例

参照に使うラフ画像を変えることで、枝の形状や構図などを自由にコントロールしながら背景を生成することができます。使う画像次第で、仕上がりの印象やバリエーションの幅も大きく変わります。

